

2026年2月3日  
セイコーエプソン株式会社

2025年度 第3四半期決算説明会  
主な質疑応答

Q：第3四半期の事業利益は、社内計画に対して、為替を除くとどの程度上回ったのか。

A：為替を除いても若干計画を上回った。

Q：商業・産業 IJP の実績が好調だったが特にプリントヘッド外販の状況と今後の見通しは。

A：プリントヘッド外販は、主要市場である中国は軟調な需要が継続している。一方、去年は生産設備組み換えにより出荷調整を行った影響で今期の販売は前年を上回った。また、中国以外の地域での販売が増えている。

第4四半期以降については、主要市場である中国での回復が重要となるが、現時点では回復時期について見極めが必要。中国経済全体の内需回復が進めば、サイネージやグラフィックス分野の投資回復も期待できる。

Q：2025年度の通期業績予想について、前回予想と比べて税金費用が増加しているがその理由は。

A：事業構造の変化や税務的な課題に起因するものではない。セイコーエプソンと海外子会社との間の利益バランスに偏りが生じたため、連結の実効税率が上昇した。これは恒久的なものではなく、2025年度における一時的なものである。

Q：貴金属などの原材料費高騰の影響は。

A：対象となる貴金属は主に金と銀である。金はマイクロデバイス、銀はウオッチなどに使用している。価格は高騰しているが、使用量の関係から業績への影響は限定的であり、影響額は数億円レベルと見ている。

Q：営業キャッシュフロー通期予想1,100億円の進捗と見込みは。

A：今期の上期は低調だったものの、第3四半期は概ね計画通りだった。第4四半期では、在庫削減の効果や商戦期の入金による増加を見込んでいる。

以上